

令和6年度

青森県保育連合会

北海道・東北ブロック 保育指導者セミナー

「自閉症者は津軽弁を話さない」！？
10年にわたる研究の結果とは！？
この機会に是非、多数ご参加ください！！

日時

5/14(火) 13:15~16:00

形式

オンライン(Zoomアプリ)

内容

<開会>

あいさつ

北海道・東北ブロック保育協議会 会長 渡邊 建道

<基調報告>

「保育を取り巻く現状と課題」(仮)

全国保育協議会 副会長 森田 信司 氏

<講演>

「自閉症は津軽弁を話さない

…自閉症スペクトラム症の子ども理解と保護者支援を考える…」(仮)

講師：教育心理支援教室・研究所 ガジュマルつがる

代表 松本 敏治 氏

参加費

<会員限定> 2,000円/人

※詳細は開催要項をご覧ください。

対象者：一般社団法人 青森県保育連合会 会員施設の職員

申込：青森県保育連合会ホームページ「研修案内」掲載の

申込フォームよりお申込みください。

締切：令和6年4月30日(火)

問合せ先：一般社団法人 青森県保育連合会 事務局

TEL：017-734-2350 FAX：017-777-8698

HP：http://aomoriken-hoikurengoukai.jp/

<講師のご紹介>

松本 敏治 (まつもと としはる)



教育心理支援教室・研究所 ガジュマルつがる 代表

1957年生まれ。博士（教育学）。公認心理師、特別支援教育士スーパーバイザー、臨床発達心理士。1987年、北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。室蘭工業大学助教授などを経て、2000年弘前大学助教授、2003年同教授。同大学教育学部附属の特別支援学校長、特別支援教育センター長を歴任。現在、教育心理支援教室・研究所「ガジュマルつがる」代表。

◆著書のご紹介◆

「自閉症者は津軽弁を話さない」



【目次】

- 発端
- 第1章 自閉症は津軽弁をしゃべんねっきゃ
- 第2章 北東北調査
- 第3章 全国調査
- 第4章 方言とは
- 第5章 解釈仮説の検証
- 第6章 方言の社会的機能説
- 第7章 ASD幼児の方言使用
- 第8章 ASDの言語的特徴と原因論
- 第9章 家族の真似とテレビの真似
- 第10章 ことばと社会的認知の関係
- 第11章 かず君の場合
- 第12章 社会的機能仮説再考
- 第13章 方言を話すASD
- 第14章 「行きます」
- 第15章 コミュニケーションと意図
文庫版あとがきを新規収録

「自閉症者は津軽弁を話さない」!10年にわたる研究、話題作が文庫化!

【発売直後から話題】

- ★読売新聞 2020年10月18日「文庫新書欄」掲載
- ★J-CAST BOOKウォッチ 同10月21日「デイリーBOOKウォッチ」掲載
- ★朝日新聞 同10月24日「山田航が薦める文庫この新刊!」掲載
- ★honto ブックツリー 同10月30日「『言語』に興味をもっている人へ」(選:高野秀行氏)掲載
- ★ダ・ヴィンチニュース 同11月6日書評(文:いのうえゆきひろ氏)掲載
- ★毎日新聞 同11月7日「今週の本棚」(評:渡邊十糸子氏)掲載
- ★東京新聞 同11月14日「酒井順子さんの3冊の本棚」掲載
- ★北海道新聞 同11月14日著者インタビュー掲載
- ★要約サイト「フライヤー」 同12月16日掲載

「今日の健診でみた自閉症の子も、お母さんバリバリの津軽弁なのに、本人は津軽弁しゃべんないのさ」ー津軽地域で乳幼児健診にかかわる妻が語った一言。「じゃあ、ちゃんと調べてやる」。こんなきっかけで始まった「自閉症と方言」研究は10年に及び、関係者を驚かせる結果をもたらすものとなった。方言の社会的機能を「意図」というキーワードで整理するなかで見えてきた、自閉症児のコミュニケーションの特異性に迫る。